

平成 1 5 年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 マアナゴ

学名 *Conger myriaster*

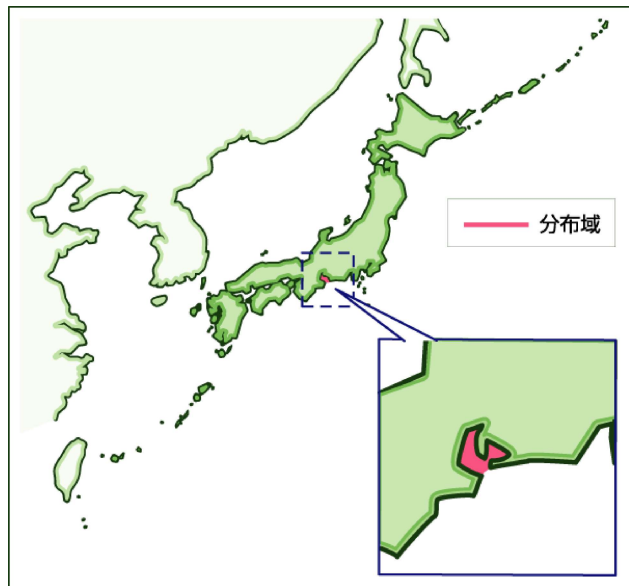
系群名 伊勢・三河湾

担当水研 中央水産研究所

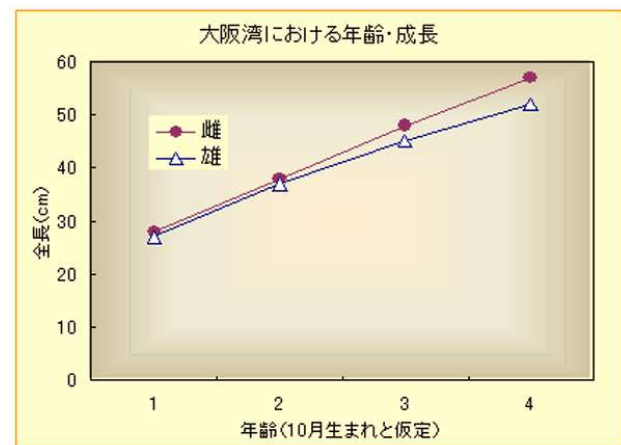


生物学の特徴

- 寿命： 不明
- 成熟開始年齢： 不明、雌雄とも成熟個体が見つかっていない
- 産卵期・産卵場： 東シナ海等の我が国の南方海域が産卵場と想定されているが、
産卵期は不明
- 索餌期・索餌場： 周年、伊勢・三河湾
- 食性： 小型の底性生物、エビ類、魚類、軟体類など、成長につれ多様
化大型化する
- 捕食者： 不明



説明
マアナゴの仔魚(レプトケパルス)は「のれそれ」と呼ばれ、春季に湾内に来遊して船びき網などで混獲される。沿岸域に来遊する以前の生態は不明である

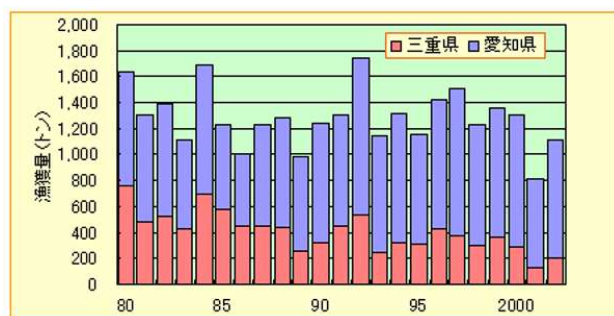


漁業の特徴

伊勢・三河湾における漁獲は主として、小型底びき網漁業、かご漁業により行われている。伊勢湾の三重県海域での小型底びき網の漁場は、湾奥部と湾口部を中心に、伊勢湾全域に形成される。かご漁業の漁場は、沿岸に沿って広く形成される。愛知県においては、知多地区の漁獲量が多い。

漁獲の動向

愛知県と三重県の1980年以降の漁獲量は814～1,745トンで変動しているが、概ね1,000～1,500トンで安定して推移している。2001年は愛知県、三重県ともに過去22年間で最低となったが、2002年漁獲量が再び1,000トンを超えたことから、一時的な減少に止まり資源は回復したもの見られる。



資源評価法

1980年以降の愛知県と三重県の漁獲量の経年変化から現在の資源状態を判断した。

資源状態

漁獲量は2001年に大きく減少したが、その後回復していることから、現在では資源水準は中位で安定しているものと考えられる。



管理方策

伊勢・三河湾のマアナゴは、水産庁が推進する資源回復計画の対象魚種に指定されている。同計画では、2007年までを目途に伊勢・三河湾小型底びき網の漁獲対象であるトラフグ、シャコ、マアナゴの3魚種合計の漁獲量を25%程度増加させることを目標とした。その目標を達成するために、小型底びき網に入網した小型魚の水揚げ禁止、再放流等の措置がとられている。本評価対象は、春季に仔魚として伊勢・三河湾内に来遊したものが、その年の秋～冬に漁獲加入し始め、翌年の春～夏に漁獲の中心となることから、秋冬漁期の小型魚を保護し、加入量あたりの漁獲量増大を管理目標とする。

資源評価のまとめ

- 漁獲量の経年変化から判断して、伊勢・三河湾のマアナゴ資源は中位水準にある

資源管理方策のまとめ

- 加入量あたり漁獲量の増大が目標
- 秋冬漁期の小型魚の保護が有効な管理方策
- 生物学的特性、漁獲特性等に関するデータの蓄積が必要

資源評価は毎年更新されます。